

2017年(平成29年)2月1日発行

発行者:大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部:〒579-8012 大阪府東大阪市上石切町1-3-23 tel&fax 072-943-1865 (編集責任者:広報部萱間)

積極的に活動に協力を

JOFI大阪会員のみならず、海の温暖化や災害発生など、これまでになかった地球規模の大きな自然環境の変化の中にもかかわらず、健全な釣り、健全な釣り環境を保持推進するための数多くの事業に参加、協力をいただき、ありがとうございます。

水産庁からの活動予算も年を経るごとに少なくなっているなかで、皆さまの限らない善意の協力こそ貴重なものであることは、いまさら言うまでもありません。

一方で温暖化の影響か、海の状況は年々変化を見せ、この初春など、まだ大阪湾内に20cmほどのマイワシが回遊し、それを追ってハマチ、メジロ、ブリに至るまでの大物が回遊しており、時ならぬ波止からのノマセ釣りブームが起きています。そのほかに、乗合船ではタチウオが周年釣れるようになり、その反面メバル、アジ、サバが大幅に減少するなど、釣り対象魚の生息状況の変化もただならぬものがあります。

もとより、魚の動向に一喜一憂するよりも、自然界の大きな流れの中での変化と冷静に捉えるのがわたしたちの立場ではありますが、このように年々大きな変化が続けば、いささか不安にもなってくるのは当然のことではないでしょうか。

まして、釣り人でもない、一般の初心者の方々を釣りという「健全なあそび」に誘うには、相応の状況変化への予測も不可欠なものになってきます。

JOFI活動の中には、本来のこうした知識に対する勉強の機会が必要不可欠であり、技術、釣り用品に対する最新知識をマスターし未来に向けての準備をしておくべきなのでしょうが、限られた人数の中で、次々と行われる事業活動に対応するのが精一杯というのが、皆さんもご承知の通りの実情で、その機会すら設けることができないのは残念なことです。

なるうことなら、インストラクター資格を持つ若い人々が積極的に事業に参加し、運営に慣れてくれればという願いとはべつに、世情騒然、経済活動もぎりぎりの現状ではままならないというのも事実です。かくなる上は、平均会員年齢が年を追うごとに高くなっているなかでも、もう一頑張りみなさまにご尽力をいただくほかありません。なにとぞよろしくお願いします。

ところで数日前、水産庁からクロマグロの漁獲について、遊漁者、遊漁船業者に向けて協力要請が行われました。

太平洋クロマグロが急激に減少している中で、世界的な流れとして止むを得ない措置であろうとは思いますが、クロマグロの30kg未満のものは全てリリースするとなると、いささか困ったなど考え

來田仁成 (大阪府釣りインストラクター連絡機構代表)

込まざるを得ません。まず30kgのクロマグロといえば体長にして120cmになるそうです。そんな大きなマグロなど釣ったことはないというのが釣り人大半の感想であろうと思われる。クロマグロの幼魚であるヨコワの80cm程度のものなら、メジロ釣りのうれしい外道として釣れることがあり、大喜びした経験をお持ちの方なら少なくないと思われます。また駿河湾などの乗合船で「メジマグロ(ヨコワ)」を専門に狙う乗合船があったことも事実です。

しかし、年間を通じて釣り人が釣り上げるマグロなどたかがしれた量であろうとも思われます。それに、生涯走り続けなければ呼吸ができず命断つ魚であるマグロ類をリリースすることで、本当に彼らの種に与えるダメージを減少させることができるのかといえはなはだ疑問に思いもしてきます。

ただ、釣り人と言う種族の基本的なスタンスは「釣りの自由を守るため、その第一歩として、法を遵守する」ところにあると考えます。ならば、30kg以下のクロマグロはリリースするという要請には対応するというのが、一番いい方法ではないかと思うのです。

もしヨコワが釣れても放流することに協力しましょう。

さて私個人の釣りについて言えば、いま、最も興味深く思えるのがディープアジングです。紀州から紀東にかけての、水深60m前後の岩礁帯で船からのアジングを試みて60cm級のマアジを釣りたいと思っています。いわゆるアジカブラ、ウメイロカブラの延長線にある釣りですが、こうして目先が変わってルアー釣りの一種の印象ともなれば、また違う味わいが出てきます。第一、いままで想像もしなかったアジの大型が釣れるわけですから、見逃すわけにはいきません。

一昨年、昨年と続いて波止からのアジング、メバリングが興味の対象でした。夜になって波止に出かけるのですから、家族には結構反対され、危惧されましたが、釣行の度に数は少ないが、サビキ釣りよりも一回りも二回りも大きなアジを持って帰る(もちろんボーズも多いわけですが)ことで、なんとなく釣りとしての市民権を得るに至りました。

こんどは紀東に出かけるとしても、なかなか単独で出してもは貰えそうにありません。みなさんと誘い合わせて紀東まで出かけたと思っています。ぜひ声をかけて下さい。

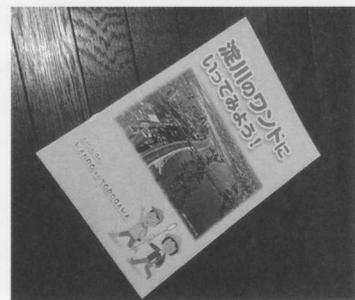
JOFI大阪のみなさん、今年も若者たちに負けずに、新しい挑戦に向けて頑張りましょう。

報告1

淀川わんどクリーン大作戦 (H28-7/16)

7月16日、城北地区でおこなわれた淀川わんどクリーン大作戦に参加しました。JOFI大阪からは2名。全体の参加者は100名くらい。午前10時よりゴミ拾いをスタート。ゴミの定番ペットボトルや空き缶などが散見されましたが、全体的にゴミは思いのほか少なく、1時間の清掃時間を持て余すほどでした。当日、ルアーフィッシングを楽しんでおられる方の中に一人、腰にコンビニ袋とゴミ拾い用のトングをぶら下げ、移動のたびに目についたゴミを拾っている釣り

人がおられました。同じ釣り人として見習うべき姿勢だと思いました。ゴミ拾いの後、ワンドの歴史や天然記念物イタセンバラとその増殖の取り組みについてなど、環境学習もおこなわれました。(報告 室井)



報告2

全国縦断チャリティ釣り祭り大阪大会 (H28-9/22)

9月22日、大阪湾北港舞洲アリーナで全日本釣り団体協議会主催「チャリティ釣り祭り」が開催されました。参加者には初心者の家族連れも多く、技術指導のほかに、釣りのルール・マナー、安全確保などを伝えました。午後から雨が降り出し、帰られた人いましたが、表彰式や抽選会に大きな声が上がっていました。(報告 物部)



報告3

ボーイスカウトなにわ地区釣り教室 (H28-9/18)

9月18日、日本ボーイスカウト大阪連盟なにわ地区の釣り教室を淡輪公民館で行ないましたが、当日は大雨と雷の注意報が出ており、午後からも回復しなかったので座学だけに終わりました。楽し

みにしていた実釣が出来なくて残念でした。(報告 石川)



報告4

寝屋川市・親子ふれあい釣り教室 (H28-9/24)

9月24日、今年度も寝屋川市スポーツ少年団からの協力依頼があり、インストラクター他7名で実施しました。参加者はスクール生ら21名と、摂南大生4名、少年団スタッフ5名で計30名。

会場の南港魚釣り園は来園者の一番多い土曜日であり、竿の準備等のために6時に5名が現地集合。1人はマイクロバスの中で釣り教室を行いました。マイクロバスで移動中の参加者に、今イワシが釣れているので早く来たほうがいいとの連絡があり、釣り教室中

の参加者に大きな歓声が上がりました。

到着すると、事前に準備した釣り具が釣り場に置かれ、仕掛けをセットし早速釣りを開始しました。アジやイワシなどがすぐに入れ食いの状態になり、参加者は大喜びです。昼食のあともたくさん釣れたので、釣り場を清掃し、閉会式を少し早くしました。今年も紀州釣り専門の人からチヌやガシラなどいただきました。提供していただいた釣り人有難うございました。(報告 物部)



報告5

JOFI 釣り例会 (H28-10/1)

10月1日、JOFIでは滅多にない「釣りをする例会」です。雨の残っている中、友人を誘いながら泉南・小島漁港へ。出船時には雨も上がり、穏やかな絶好の船釣り日和になりました。泉州丸に荷物を積み込み出発。漁場淡路島沖に向かいました。到着すると100隻近い遊漁船が見えて壮観でした。水深60~70m付近に仕掛けを下し、12時前までに釣り座を変わったりして、全員が釣果を見ることができました。全員で61匹。最大は石川氏の127cm。

帰港後は和歌山国民休村で昼食と反省会を行ないました。今回の

学習会で学んだことは、どんな釣りでも魚は私達を楽しませてくれることです。これからは水辺を守る活動しながら、釣りの楽しさと喜びを引き継ぎたい。(報告 物部)



秋のみらい園のぞみ園釣り教室 (H28-9/25)

9月25日、大阪岸和田港「なぎさ公園」にて恒例の大阪市立弘済みらい園のぞみ園釣り教室を開催しました。

インストラクターの先発隊は午前4時になぎさ公園に集合。場所を確保しながら、サビキ仕掛けでアジ釣りを開始。参加する子供たちに釣りたいの魚を味わってもらうためです。6時からテントの設営や準備等で大忙し。9時すぎ子供たちが到着しました。

まず釣る前のお勉強です。仕掛け・釣り方・マナー・危険な魚等を説明。ライフジャケット着用を確認し、釣り場へ移動。お待ちかねの実釣の開始。1分も経たないのに歓声が！ 去年に引き続き、本日も釣り始めからサビキ仕掛けを投入すればイワシが鈴なりに釣れる状況で、釣れすぎて疲労困憊。食事の時間を1時間前倒しました。インストラクターが準備したアジ・イワシのから揚げは子供たちに大人気で、たくさん作ったつもりがすぐに品切れでした。昼を過ぎてもイワシがサビキ仕掛けに鈴なり状態で、予定を変更し2



時過ぎに実釣を終え、一人一人に修了証を手渡して28年秋の釣り教室を終了しました。(報告 田隅)

かしわらフィッシングスクール (H28-5/28~9/18)

今年度は5月28日を第一回目として柏原市フローラルセンターでスタート。このスクールは前期と後期、各三回開催し、最後にニジマス釣りを実施しています。前期で20名、後期15名の参加があり、「釣りの基本」「釣りマナー」等の座学と、石川河川敷での「キャストイング」講習を行ないました。仕上げの講習は35名で実釣です。あいにく雨の中でしたがニジマスが釣れるたびに家族の大歓声が響



き聞き、釣りの楽しさを再認識した一日でした。(報告 森脇)

ボーイスカウトかわち地区釣り章考査会 (H28-10/23)

10月23日、日本ボーイスカウト大阪連盟かわち地区の釣り章考査会を、淡輪公民館と淡輪漁港で行ないました。当日は晴れのち曇り、午後から北風が強く吹く寒い日でした。午前中は座学を、午後から

理解度テスト、その後淡輪港でサビキ釣りの実釣を行ない、イワシの大魚で満足でした。座学の内容と講師です。「釣りの基本・安全確保とルールやマナー」石川、「ルアー及びフライ」室井、「釣り以外で魚を捕らえる方法」酒井、「釣りのまめ知識」辻、「釣り糸の結び方の実技」小川。釣り場清掃を終え、午後5時に閉会式。日本ボーイスカウト大阪連盟から「釣り章」、JOFI 大阪から「釣り初級認定証」の授与を行ない終了しました。(報告 石川)



日釣振ファミリー海釣り大会 / 魚拓教室 (H28-10/30)

10月30日、大阪北港舞洲シーサイドプロムナードで日釣振主催でファミリー海釣り大会が開催されました。私達インストラクターも釣り教室や技術指導と魚拓教室、水質調査実演支援を行ないました。一般参加者は134名。スタッフ40名、釣り指導員6名。朝早

くからたくさんの親子連れが訪れ、魚が釣れる度に大歓声、魚拓に持ち込まれた魚は、クサフグ・エソ・サヨリ・アジ・カタクチイワシ・キビレなど種。エソ34cmを釣った少年は自分で魚拓を取り、大会では他魚の部で1位に入賞しました。(報告 辻)



み・らいずバリアフリー釣り教室 (H28-11/5)

11月5日、障害を持つ人たちに安全に魚釣りを楽しんで頂くため、NPO 法人みらいずさんが企画した第16回バリアフリー釣り教室にインストラクター7名で参加しました。会場の淡輪ヨットハーバーは、日常は魚釣り禁止ですが、御厚意での催しのためヨットの出入りの少ない面を開放して下さいます。

参加者はボランティア、ヘルパーやインストラクターを含め42名でした。釣り方はサビキ釣りで、例年は他の会場に比べ釣果は良いのですが、今年は最初ズメダイしか釣れなかったが、時間が経過していくうちに、アジ、フダや25cm前後のサバが釣れ出し、参加された人達は、釣りの楽しさを十分に楽しんでおられました。

一番忙しかったのは釣れた魚をカラ揚げや刺身に捌く人達で、その魚の美味かったこと！ 揚げても揚げてもすぐなくなり魚を集め



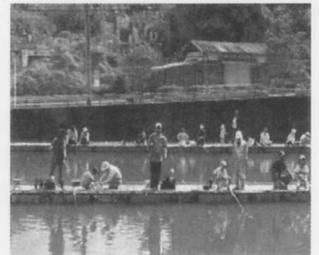
る人も食べる人も大喜びでした。

自分の釣りを楽しむことも大切ですが、釣りインストラクターの資格によりこのような支援ができることは、釣り文化を多くの人に知ってもらうためにも重要なことであり、充実した一日でもありました。(報告 西谷)

やわたフィッシングスクール (H28-9/11)

午前中は講義として、男山のさくら小学校体育館で「釣りの基本」と「マナーやルール」「釣りの仕掛けとエサ作り」、「釣り座」などを話しました。午後からは、志水農家組合釣り池センターに移動してコイ釣りに挑戦です。私達は釣具店で売っている「コイ釣りエサ」を使用し、小さな釣に付けるところから協力しながら、コイの特性やアワセの時などを説明しました。参加者は40~50cmのコイを次々

と釣り、全員が歓声を上げて釣りの楽しさを体感され無事終了しました。21年繰り返し実施してきました釣り教室は、八幡市教育委員会社会教育課の年間行事として今後も開催します。(報告 吉川)



全国一斉清掃デー (H28-10/16)

10月16日、日本釣振興会大阪府支部主催『水辺感謝の日』全国一斉清掃デーに参加しました。泉佐野食品コンビナート一帯の清掃作業に参加して感じたことは、釣り人が多いのに思ったほどゴミはありませんでした。でも参加されている人は非常に多く、一般市民のボランティアや釣り具販売店、そして釣り人です。少し釣り人の

ゴミについての考え方が変わってきたのかも知れません。しかし立ち入り禁止区域での釣り人は多く、泉佐野漁港の禁止区域については再考する必要を感じました。(報告 物部)

水辺環境保全活動 (H28-12/22)

12月22日、北港舞洲常吉大橋下にて2016年度の日本釣振興会大阪支部・水辺環境保全活動が開催され協力しました。10月19日の予定が荒天のため本日に延期されました。当日の常吉橋下には釣り人は1人もいませんでしたがゴミはいっぱいありました。ゴミの種類を見ると釣り人のゴミもありましたが、駐車している大型トラックからのゴミも見受けられました。(報告 辻)



公認釣りインストラクター講習会と試験 (H28-12/4)

平成28年度の講習会と試験は、ヒューマンアカデミー大阪心齋橋校で、12月3日と4日に開催されました。西日本の釣り人を対象に、各地からの受講生24名で実施。

全日本釣り団体協議会常務理事・綿井良隆(敬称略、以下同じ)の挨拶から始まり、「インストラクターの心得と釣り総論と指導要綱」を全釣り協副会長・来田仁成、「漁業法など遊漁に関する法令と漁業調整規則の知識」を大阪府環境農林水産課・坂上雄康。午後の講義は、「釣り具の知識と釣りに関する諸問題」綿井良隆、「釣りとは自然環境の問題」窪悟、「海釣りの概論」辻哲男。

二日目の講義は「内水面の釣り」物部胤三、「気象・海象の危険回避」来田仁成、「ルアー釣り・海と淡水及び諸問題」花野誠次。昼食後、

試験の注意事項説明が済み、一時間の筆記試験や論文試験を受け、最終の実技と面接試験も全員が無事に終了されました。(報告 物部)

